



他 飛鳥 さん

やっちゃん！飛鳥さん

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

ち
ん
ち
ん
ち
ん

花島 さん

やっやえ！花島さん

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



かばしま しほり
椛島詩保理さん
とは小学校からの
同級生だ

中学に上がる頃から
ほとんど会話する
機会は無かったが

彼女の
胸が

大きく発育してゆく
過程をずっとずっと
見続けてきた



このまま
後悔するよりはと
意を決して
思いを伝えると

奇跡的に彼女は
僕の好意を
受け入れてくれた

今日は僕達の学校の
文化祭だ

クラスで作った
ポロシャツが
パツパツになって
彼女の爆乳を
より際立たせている

自分達の当番を
終えたら彼女と
文化祭を回る
デートの予定だ



ダッ…ダメだよ
こんな所でっ…!

もし誰かに
見られたらっ…

椋島さんとデートした日は
今まで欠かさずセックスを
してきたので校内にも
関わらず条件反射でたく
なってしまう

肉欲に脳を支配された僕は
たまらず人気のない教室に
彼女を連れ込んだが
流石に彼女は冷静だった

ダメっ……!

もう
おわじっ……

おわじっ
しゅっ……♡♡

ひとまずは胸だけで
我慢すると嘸いて
校内で彼女の乳房を
露出させしゃぶりついた

ちゃ
ちゃ

湿ってるよ……

彼女はしきりに甘い声で
行為の終了を懇願して
いたが僕の口内で
彼女の乳首はととも
固くなっていた

もも…
もっ…♡

ハア

ハア

好きにっ…♡

結局我慢できなく
なったのは
椀島さんの方
だった

乳首をピンと反り勃たせ
股間はしっとり湿り
体からは甘い臭いを
立ち上らせていた

もも
もも



ああ、校内で抱く
椛島さんすっげ
いいよッ!

ほっ♡

ッポ

ッポ

びんぎゃ

ハッ

カァン

結局は文化祭の最中にも
関わらず生ハメ。
大人しく恥ずかしがり屋な
彼女だが意外にも僕と
同程度にセックスに
ハマっているようだった

まあ…これだけ
セックスアピールが強い
体をしているのだから
むしろ当然のことなのかも
しれない



最後に不意打ちで
膣内に出してやると

ん~~~~♡

学校で
精子…

出されちゃった
よあつ…♡♡♡

彼女は学校内で
中出しされたという
状況に興奮したのか
しばらくの間絶頂が
持続し体を震わせていた

僕の思う以上に
彼女は変態なの
かもしれない

おっ

エロ…



事を終えてデートを再開
するとあの椀島さんが
校内で人目も気にせず
手を握ったり
腕を組んだりしてきた



イキッ

イキッ

むっ…

もちろん僕自身も
悪い気はしなかったが
流石にちよっと
恥ずかしかったかな…

イキッ



結局イチャイチャが
収まらずに帰りに
ホテルでゆったり
ラブラブH

〇〇くん
しゅき…♡

僕も椛島さん大好き♡
中で出している？

うん
いいよ♡

先ほどのテンションのままの
椛島さんはかなり積極的
甘い言葉を囁き合いながら
舌を絡ませるキスを何度もした
密着した巨大な乳房感触も
相まり今日は何回でも
射精できると思った

ギンギン

ギンギン

ウソウソ

一回戦を終えて少し
離れた所から椛島さんの
裸の全体像を見ると改めて
とんでもない体をしている

?

ちゅん...

たぶ...

美形ではないが優しく
柔和な癒やし系の顔立ち
大きく柔らかく実った乳房
脂肪を貯えたふわふわのお腹
丸く大きな尻から伸びる
むちむちの太もも...全てが
男の本能に訴えかけてくる

この娘を一刻も早く
孕ませて僕だけのものに
しなければと僕の肉棒は
早くも再びガチガチに
いきり勃っていた



勃起したイチモツを隠しつつ
彼女の背後に回り込んだ
僕は後ろから見る栞島さんの
姿も好きなんだ

な……

なに……？

この丸い肩と広い背中には
無限の母性が溢れているし
うなじから香る栞島さん
特有の体臭：汗の臭いとは
また別の芳醇な匂いを
胸いっぱい吸い込む
ああ早くセックスしたい

アッ

アッ



もいもい

興奮した僕はたまらず後ろから
椛島さんの爆乳を鷲掴みにした
思い切り持ち上げると椛島さんの
顔半分が埋もれてしまうほどの
ボリュームだ。それほど大きい
にも関わらずとても敏感でこうして
揉むだけで甘い声を漏らしてくれ
る。最近Hの度に感度が増しているとか…

んっ…
んっ…

ちんぽを尻に擦りつけたら
もう我慢できずに即ハメ
椀島さんのおまんこが
また絶品で入り口は
キュッと吸いつきしつかり
ちんぽを飲み込んでゆく

膣内はふわふわの
ヌメヌメで突く度に
うねり熱くなる

そんな絶品まんこをずんずんと力強く
突いていると巨大な乳房が弾む振動が
腕を掴む手から伝わってくる
学生にしてこんな快感を味わえている僕は
前世で相当の善行を積んだに違いない

ほら見て

中出し直後の
しほちゃんだよ

あれ？

もしかして
イッてる？

ズン

ズンズンズン

ズンズンズンズンズン

ズンズン

その様子を見て僕も興奮し
さらに3発種を仕込んだ
その時の彼女の膣は
今までで一番熱かった

彼女は中出しに強い興奮を覚える
性だったようなので一度彼女の
膣から精液がこぼれ出る様子を
写真に収めて見せつけてみた
効果はテキメンだった
画面を見た彼女の顔は一瞬で
紅潮し何かを呟きながら
絶頂するように体を震わせていた

おまけ

次のページの漫画は
以前SNSで公開した
椛島さんの2ページ母乳漫画です。

それに3ページ描き下ろしを
追加しました。

※シチュエーション先行で描いたもので
椛島さんが普段から母乳が出る子
という訳ではありません。





お茶を...

ん...

んんん...♡

お茶を...
お茶を...

お茶を...
お茶を...

お茶を...
お茶を...

あっ
おかわり下さい

お茶を...
お茶を...

お茶を...
お茶を...

お茶を...
お茶を...

お茶を...
お茶を...

直飲み

甘っ

ジュ

おっ

お客様ッ……!

だっ

ダメですっ

お客様ッ……

ジュジュジュジュジュ

ジュジュジュ

ジュジュ

ジュジュ





カッ

わっ……

おっお客様……

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

ああ
最高だった

また
来ますね

あっ♡

ありがとう
ごちがいませたま

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

この後母乳がもっと
いっぱい出るように
なって3ヶ月後
寿退社しました♡



何
ん

やっちゃん!
花鳥
さん

R-18

やっちゃん! 花鳥さん

発行日 令和元年 12月30日

発行 TKジーザス

発行者 茸山しめじ

印刷 丸正インキ様

mail: shimejimushroom@gmail.com

Twitter: [@shimejitakeyama](https://twitter.com/shimejitakeyama)

pixiv: 4509604

JA








ちゅと運水ちゃった
めんね

ハア...



今日は彼とデートで駅前で待ち合わせ
だからシャワーを浴びたり毛の処理を
したりと

ギリギリまで身だしなみに
気をつけてしまって
約束の時間に遅れそうに
なっってしまった 急いで走っていくと
彼はいつもの笑顔で迎えてくれました
もう結構汗かいちゃったけど大丈夫かな…
だって今日はこの後…



今日は彼女の栲島さんとデート
いつもは時間前に来てる栲島さんが
今日は少し遅れているようだ

辺りを見回していると

少し遠くから一人の女の子が

大きな胸を弾ませながら小走りで

こちらに近づいてくる

僕の彼女だとすぐにわかった

額に汗してまで走ってきてくれる姿がとても愛らしい

今日は暑いのでこのまますぐにホテルに行くと彼女と前から予定していたんだ

ホテルの部屋に入ると彼にシャワーを浴びようと言われました
私が汗くさかったのかなあ…

上着を

脱ぐ

瞬間自分の

汗の匂いを

感じたので

早くシャワーを

浴びたいと思っていると

急に彼に後ろから抱きしめられました





んっ...

んっ...

んっ...

んっ...

んっ...

もっ...

もっ...

んっ...

そして彼は私のお腹のお肉をぎゅうと驚掴みにするんです
そうされると私はお腹の奥がキュンと疼き
体からはまた汗が滲むのを感じます…

そんな
私の
うなじに
彼は顔を
近づけて匂い
を嗅いできます
恥ずかしい…でも私もすでに
彼と同じくらい興奮していました

ムン

ムン

もいっか

もいっか

キュン♡

僕は早く彼女の裸が見たくてシャワーに誘った
彼女が上着を脱いで頭になった丸く広い肩と背中に
ブラ紐が食い込んでいるのを見たらすぐに
発情してしまい

彼女に
抱きつき
汗ばんだ

うなじの匂い
を吸い込んだ

僕は栞島さんの
体臭が大好きだ
惜しいがとにかく今は裸を見たいんだ
シャワーで落としてしまうのは

ムン

もいっか

もいっか

キュン♡



んっ...

んっ...

んっ

んっ

これは毎回のことだけど一緒にお風呂に入ろうと服を脱ぐと彼のおちんちんは既におつきくなっています…。でもそこに石鹸を付けて洗っているとさらに固く…熱く…大きくなっていくんです。その感覚が手のひらから伝わってくる私と段々興奮してきて…♡

ん…

ん…

ん…

ん…



花島さんの豊満な肉体は全裸で見るのが一番美しく官能的だ
濡れて煌めく大きな乳房に僕の目は釘付けになっている
しかも彼女は僕のいきりたった性器を甲斐甲斐しく手で洗って
くれている これ以上充実した時間はない。
にも関わらず僕のちんぽは早く挿れたいと
我慢汁をとめどなく
溢れさせている…





3c♥

Vhan

3c♥

9c♥

気づいたら私はせっつかくきれいに洗ったおちんちんを早速よだれまみれにしちやっつけていました♡ 私がこんなにおちんちんを舐めることを大好きになるなんて少し前までは思ってもみませんでした。

それ以上に彼自身のことが大好きだからかな…??

んっ♡

んっ♡
んっ♡



ああ〜っ
栞島さんっ♡

おちんちんがお口に中でびくんと跳ねたりしよっぱいおつゆ(我慢汁)を出してくれる度に彼のこゝを愛おしく感じるんです…♡

んっ♡
んっ♡

栞島さんは泡を落とし終えると急にしゃがみこんで僕の亀頭を口に含んだ
かつ…栞島さん！ シャワーのお湯より温かくヌルヌルの口内で舌が裏筋に絡みつく
つい最近まで処女だったとは思えないほど上手になった口淫テクに
僕は思わず腰が浮いて
しまう



大好きな彼女がしてくれるフェラの気持ちよさは情けない声を
漏らしてしまうほどだが今日の一発目は絶対彼女の中で出すと決めていたので必死に堪えた

ああ〜っ
栞島さんっ♡

んっ♡
んっ♡

んっ♡

んっ♡
んっ♡



ん...
♡

Paw

交代し僕が彼女の
体を洗っていく
どこに触れても

もちもち

フワフワで

とても

心地いい

ん…♡

んっ

中でも一番柔らかい
のがこの巨大な乳房
持ち上げて重量を感じると
より大きさを実感できる
手のひらから伝わる快感が

股間まで走りより僕の肉棒は固く大きくなっていく…あぁもう我慢できないっ…!!



今度は彼が私の
体を洗って
くれます…
でもおっぱいが
やけに念入りで
触り方も
エッチで…

ん…♡

んっ

それに背中に
ずっと固いモノが
当たってて…

この後の事を想像して
私の乳首も固く
膨らんでしまいました…(恥)





たっ...

たっ...

たっ...

たっ...

たっ...

たっ

たっ

たっ

たっ

たっ...

たっ...

私の全身が熱くなって丁度欲しかったタイミングで
彼は私にエッチなキスをしてくれました
はしたないけど私も彼の舌に貪りつくように
迎え入れてしまいますっ♡

たっ
たっ

たっ
たっ

ズ
ズ

あつきもちいいっ♡ おっぱいを愛撫されてエッチなキスをされて
お腹に押し付けられた彼のおちんちんの固さと脈動を感じたら
早く彼を私の膣内に受け入れてきもちよくなりたくなってしまいますっ♡

めりゅ...

エッチ...
エッチ...

たっ...

エッチ...
エッチ...

僕は彼女を振り向かせ力強く唇を奪った
彼女もすぐに僕の舌を受け入れねっとりと絡ませてきた
僕も今度はしっかりとエッチな触り方で
乳房を揉みしだく

たぶ

たぶ

ズン

ズン

たぶ...

たぶ...

たぶ...

たぶ...

たぶ...

たぶ...

僕のポルテージもどんどん上がり屹立した陰茎が彼女のやわらかい
お腹の肉にめり込む これがまるでパイズリされているように気持ちいい
やっぱり君は最高の体だよ桃島さん そして僕にとってこの世で唯一人の最高の女性なんだ

めり...

お風呂から先に出ただけなのに私はもう彼が恋しくてたまらなくなってしまう
早くあの固いおちんちんを挿れて欲しい：彼と深く強く繋がりたい…！
いっぱいかわいいって言うってもらいながらHなキスして欲しいっ…♡
そんなことを考えてたら興奮して体は汗だく
おまたもぐしよぐしよ…

また汗臭くなっちゃうけど

彼はいつもそんな私の全てを愛してくれます

ああっ○○君大好きっ♡ 早く私を抱いて…っ♡

私は彼に会うまで嫌いだっただ自分の太った身体を自ら曝け出し

お風呂から出た彼にいっぱい愛して欲しいと懇願しました…



栴島さんには先に風呂場から出てもらいこれから彼女の中に入る肉棒をキレイに洗ってから僕も風呂場から出ることにした その瞬間目に飛び込んできたのは僕との性交を待ちわびた栴島さんの姿だった

顔は紅潮し瞳孔は開き
股からは
期待汁が滴り

太ももを伝っている

風呂上がりにも関わらず彼女はまたたつぷりと汗をかき

身体からは発情したフェロモンを匂い立たせていた

すぐさま彼女をベッドに押し倒し我慢汁が滴る亀頭を膣口に押し付けた





ほっ
ほっ

ほっ

たのし
たのし

たのし
たのし

あまのすけ

たのし
たのし

彼にベッドに組み伏せられた私は早く挿れやすいようにとお尻を高く突き出しました
すると私のアソコが濡れすぎてたのかおちんちんがいつきに奥まで入ってきて
意識が飛びそうになりました♡

ああっすごいっ♡

普段は優しい彼がこの時だけは
おっきい生おちんちんで
容赦なく私のきもちいい所を
責め立てます♡

高校生でお生でえっちななんて
絶対ダメなのに…
こんなの知っちゃったら
もう我慢できないよ…

でも我慢なんてしなくて
いいのかも…
だってこんなに
きもちいい♡
生ハメセックス
きもちいいん
だもん♡

ほっ♡

びびっ

びびっ

ほっ♡

たぽっ
たぽっ

たぽっ
たぽっ

ぽっ
ぽっ



彼女の膣は僕の亀頭に触れるやいなや吸い込むようにヌルンと呑み込む
中はすでにトロトロにとろけていた

大好きな女の子の性器のあまりのキモチよさに勝手に腰が動いてしまう
腰を打ち付ける度に肉と肉がぶつかる音がし
彼女の尻肉が大きく波打つ

彼女は膣奥を突かれる度に
動物のように情けない
喘ぎ声を上げ

僕も快感に情けない声を
上げてしまう

僕たちが今している事は
まさに交尾だ

惹かれ合ったオスとメスが
子孫を作る為に行う
本能的に最高の行為だ

花島さん
君は絶対僕が
孕ませるよ

ほっ

びびっ

びびっ

ほっ

たぽん

たぽん

たぽん







クワッ

ムムム

ムムムムム

ムム

ムリだよ
こんなエロ
腰止まんねえ

ムムムム
ムムムム

ムムムム

ムムムム
ムムムム
ムムムム



おっ

おっ

カッパッ

カッパッ

おっ

おっ

カッ

カッ

寝バックで体重のかかったおちんちんでプレス
されて動物みたいに喘ぎました
お臆が敏感になってるからか
彼のおちんちんがさらにどンドン
ふくらんでいくのがわかります♡

おおお♡

うれしいっ♡

彼が私のおまんこで

気持ちよくなって

くれているなら

こんなうれしい♡とは

ありませんっ♡

もういつ中に射精してくれてもいいよっ♡♡♡

●●君の遺伝子…私にだけちようだいっ♡♡♡

お♡



もうどれくらい性器を往復させたのだろう

最早結合部は熱くてヌルヌルで

僕と彼女の境界がよくわからない

でもとても気持ちよくて

僕の精液は今か今かと

彼女の子宮に入りたがり

すぐそこまで込み

上がってきている

おおお♡

一方奥を突く度に

彼女の子宮口も亀頭に

ちゅうと吸い付いてくる

ような感覚がある

僕が中で出したいように

花島さんも子種が欲しいんだねッ

じゃあ出すよッ一番奥でッ本気で孕ませるぞッ

イクッ…うわあああ…イクウッッッ

お♡





熱いつ 彼のおちんちんが弾むように

痙攣すると同時に私の膣内に熱い

液体が吐き出されました♡

その熱さはおまんこが

焼けるように

感じるほどです♡

ふあ♡

この熱さが

彼がどれくらい

私を好きなのかを

表しているようで

とてもうれしいんです♡

まだビクビクするおちんちんとそこから

注がれ続ける精液、彼の吐息…この余韻を

感じていたくて私は膣をきゅゅと締め付けました

出てる♡



彼女の奥深くで射精した瞬間
快感が全身と脳を駆け巡る
それと同時に達成感征服感
そしてなにより愛情で心も満たされ
最高に最高にきもちいいっ！

ふあッ♡

自分でも
信じられないほど
脈動は続き射精は
中々終わらない

いじらしく吸い付いて離さない

彼女のおまんこに全てもっていかれる勢いだ

いいよ椛島さんッ…全部受け止めてッ！

出てるっ♡

僕はしっかり精子が子宮まで行き渡るようしばらくハメたまま汗だくの背中に何度もキスをした





ム〜ム〜...

ム...

汗が...

ハア...

ハア...

あれからも何度もお互いを

求めあい栞島さんは

ほとんど失神する

ようにして眠って

しまった

僕は寝ている

彼女の乳首を

舐って

いると

ん...

再びムラムラしてきて

彼女の肢体をおかずに肉棒を

しごきぶっかけた もう散々

射精した後にも関わらず僕の精液は

ハア...

ハア...

しっからりと白く濁っていた...

私はいつの間にか

エッチの間に

眠っちゃった

みたい…

ごめんね…でも

●●君が絶倫

すぎるんだよ…♡

うーん…

起きると私のおっぱい

からほんのりと彼の精液の

香りがしました なんでも

寝てる間に一人で胸に出したみたい…

ハア…

ハア…

もう…

どうせなら膈内に

出してくれても良かったんだよ？



おわり



平田 京子

8月5日 15:30 Facebookより

海行ったらチョー久しぶりにしほちゃんに会った☆
相変わらずオッパイすごい!!!!Σ(° 0° ;



いいね!・コメントする・シェア

👍 3

小学校の頃から胸が大きくて気になってたぽっちゃり同級生を
5年ぶりくらいにFacebookで見かけたい

1...2...3...あれ？
ブラのホック増えた？

...

ってことはまた
大きくなった？

うん...

すげえ！
ユニバーサルじゃんツ！

ニギヤ...









おっぱい割
おっぱい...

とちら一番大きい
サイズですが
いかがですかー？



ハイネリン?

ハイネリンって何?

??

キキちゃん?

将棋のお話?

そっ…そういう意味
だったの…?

んっ…やだっ…

もう絶対言わないよー



アゲアゲ...

私

の胸を揉んで

アゲアゲにさせて...

515



アゲアゲ...

私

の胸はこんな感じ

なんですわー...

515









♡♡♡♡♡

♡
♡
♡

♡♡♡

♡♡♡

もいっか

もいっか





ん...

ん...

ん

ん

これは毎回のことだけど一緒にお風呂に入ろうと服を脱ぐと彼のおちんちんは既におつきくなっています…。でもそこに石鹸を付けて洗っているとさらに固く…熱く…大きくなっていくんです。その感覚が手のひらから伝わってくる私と段々興奮してきて…♡

ん…

ん…

ん…
ん…

花島さんの豊満な肉体は全裸で見るのが一番美しく官能的だ
濡れて煌めく大きな乳房に僕の目は釘付けになっている
しかも彼女は僕のいきりたった性器を甲斐甲斐しく手で洗って
くれている これ以上充実した時間はない。
にも関わらず僕のちんぽは早く挿れたいと
我慢汁をとめどなく
溢れさせている…









3♡

♡3

3♡

♡3 ♡3

気づいたら私はせっつかくきれいに洗ったおちんちんを早速よだれまみれにしちやっつていました♡ 私がこんなにおちんちんを舐めることを大好きになるなんて少し前までは思ってもみませんでした。

それ以上に彼自身のことが大好きだからかな…??

んっ♡

んっ♡
んっ♡



ああ〜っ
栞島さんっ♡

おちんちんがお口に中でびくんと跳ねたりしよっぱいおつゆ(我慢汁)を出してくれる度に彼のこゝを愛おしく感じるんです…♡

んっ♡
んっ♡

栞島さんは泡を落とし終えると急にしゃがみこんで僕の亀頭を口に含んだ
かつ…栞島さん！ シャワーのお湯より温かくヌルヌルの口内で舌が裏筋に絡みつく
つい最近まで処女だったとは思えないほど上手になった口淫テクに
僕は思わず腰が浮いて
しまう



大好きな彼女がしてくれるフェラの気持ちよさは情けない声を
漏らしてしまうほどだが今日の一発目は絶対彼女の中で出すと決めていたので必死に堪えた

ああ〜っ
栞島さんっ♡

んっ♡
んっ♡

んっ♡

んっ♡
んっ♡





3c♥

Vibn

3c♥

97c 97c







彼とお風呂に入ると
いつも私の体を
洗ってくれます…

特におっぱいを
念入りに洗って
くれるから…

ん…♡

終わる頃には
私の乳首は固く
膨らんでしまっ…

そのままお風呂で
一回目のエッチを
してしまうこと
もしょうちゆうです…

ん♡





たは...
たは...

たは...
たは...

たは...

たは...

たは

たは

たは...

たは...

たは
たは

私の全身が熱くなって丁度欲しかったタイミングで
彼は私にエッチなキスをしてくれました
はしたないけど私も彼の舌に貪りつくように
迎え入れてしまいますっ♡

たっ
たっ

たっ
たっ

ズ
ズ

あつきもちいいっ♡ おっぱいを愛撫されてエッチなキスをされて
お腹に押し付けられた彼のおちんちんの固さと脈動を感じたら
早く彼を私の膣内に受け入れてきもちよくなりたくてしまいますっ♡

めりゅ...

エッチ...
エッチ...

たっ...

エッチ...
エッチ...

僕は彼女を振り向かせ力強く唇を奪った
彼女もすぐに僕の舌を受け入れねっとりと絡ませてきた
僕も今度はしっかりとエッチな触り方で
乳房を揉みしだく

たぶ

たぶ

ズン

ズン

ズン...
ズン...

僕のポルテージもどんどん上がり屹立した陰茎が彼女のやわらかい
お腹の肉にめり込む これがまるでパイズリされているように気持ちいい
やっぱり君は最高の体だよ栞島さん そして僕にとってこの世で唯一人の最高の女性なんだ

めりゅ...

たぶ...

ズン...
ズン...





栴島さんには先に風呂場から出てもらいこれから彼女の中に入る肉棒をキレイに洗ってから僕も風呂場から出ることにした その瞬間目に飛び込んできたのは僕との性交を待ちわびた栴島さんの姿だった

顔は紅潮し瞳孔は開き
股からは
期待汁が滴り

太ももを伝っている

風呂上がりにも関わらず彼女はまたたつぷりと汗をかき

身体からは発情したフェロモンを匂い立たせていた

すぐさま彼女をベッドに押し倒し我慢汁が滴る亀頭を膣口に押し付けた





エッチしよっ♡

○○○○♡

んっ...

いっけ= 犯してっ...♡

んっ

んっ
んっ
んっ
んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ



アッ...

アッ...

アッ

アッ
アッ
アッ
アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ...











寝バックで体重のかかったおちんちんでプレス
されて動物みたいに喘ぎました
お臆が敏感になってるからか
彼のおちんちんがさらにどンドン
ふくらんでいくのがわかります♡

おおお♡

うれしいっ♡

彼が私のおまんこで

気持ちよくなって

くれているなら

こんなうれしいこととは

ありませんっ♡

もういつ中に射精してくれてもいいよっ♡♡♡

●●君の遺伝子…私にだけちようだいっ♡♡♡

ぬぢゅっ

ぬぢゅっ

お♡

んんん

んんん

もうどれくらい性器を往復させたのだろう

最早結合部は熱くてヌルヌルで

僕と彼女の境界がよくわからない

でもとても気持ちよくて

僕の精液は今か今かと

彼女の子宮に入りたがり

すぐそこまで込み

上がってきている

一方奥を突く度に

彼女の子宮口も亀頭に

ちゅうと吸い付いてくる

ような感覚がある

僕が中で出したいように

花島さんも子種が欲しいんだねッ

じゃあ出すよッ一番奥でッ本気で孕ませる気だッ

イクッ…うわあああ…イクウッッッ

おおお♡

お♡













スー...

スー...



スー...

スー...

んんんんん!!

ハァッ...
ハァッ...

んん

んん

んん



ん〜3...

ん...

汗が...

ハア...

ハア...

あれからも何度もお互いを

求めあい栞島さんは

ほとんど失神する

ようにして眠って

しまった

僕は寝ている

彼女の乳首を

舐って

いると

ん...

再びムラムラしてきて

彼女の肢体をおかずに肉棒を

しごきぶっかけた もう散々

射精した後にも関わらず僕の精液は

ハア...

ハア...

しっからりと白く濁っていた...

私はいつの間にか

エッチの間に

眠っちゃった

みたい…

ごめんね…でも

●●君が絶倫

すぎるんだよ…♡

起きると私のおっぱい

からほんのりと彼の精液の

香りがしました なんでも

寝てる間に一人で胸に出したみたい…

ハア…

ハア…

もう…

どうせなら膈内に

出してくれても良かったんだよ？







